



ようこそ

YOKOSO

5

2023 MAY VOL. 100

無料

毎月1回30日発行
2023年5月10日発行
第9巻第5号
北インド版

今月の特集

インド発、新鮮でおもしろい情報をお届け5



メールでのお問い合わせはこちらをスキャン

#formulagroup



あなたの笑顔の理由になりたい



松田博司

日本国公認会計士

✉ hiroshi.matsuda@krayman.com



菅原久子

✉ hisako.sugawara@krayman.com



マナン・アガルワル

(Manan Agarwal)

✉ manan.agarwal@krayman.com

インド鉄道産業

概要、海外直接投資(FDI)と政府の取り組み

インドの鉄道は、経済の生命線と言われています。インドの鉄道は、国土のほぼ全域をカバーする数千キロメートルに及び、米国、中国、ロシアに次ぐ世界第4位の規模を誇っています。長距離を旅客と貨物の両方で輸送しており、低コストで効率的な運行が可能のため、多くのインド人にとって最も好まれている交通手段であり続けています。インド鉄道は、毎日約13,452本の旅客列車と9,141本の貨物列車を自社ネットワークで運行しています。世界でも8番目の規模を誇り、インド内で最大の雇用主として130万人近くを雇用しています。鉄道の線路網は126,366kmに及び、国内には7,330を超える鉄道駅があります。

Recent investments and Government initiatives in Indian Railways



FDI in Railways

100% FDI in railway infrastructure, barring operations, via automatic route

Foreign Investments

Government inviting countries to set-up base for developing railway services

Global Companies

Bombardier, Hyundai-ROTEM, TALGO and CAF to manufacture semi-high-speed train sets

Private Participation

Private participation for building or strengthening rail infrastructure permissible

インドでは1991年に経済の自由化が始まりました。この間、インド政府は、investor-friendly政策によって、鉄道インフラの整備に力を注いできました。鉄道インフラへの100%外国直接投資(FDI)を認め、貨物列車や高速列車のインフラ整備に参加する機会を与えています。現在、国内外の複数の企業がインドの鉄道プロジェクトに投資することを検討していますが、鉄道事業は引き続き政府の管理下に置かれています。

鉄道分野への海外直接投資

インドの鉄道産業における海外直接投資(FDI)は、技術と資本の流入により、インド鉄道の姿を大きく変えることができます。同国の鉄道システムには十分な発展の余地があり、外資は現在のシナリオと技術進歩のギャップを効率的に埋めます。

政府は、官民パートナーシップ(PPP)により、鉄道網を25,000キロメートル伸ばすことを計画しています。現在、PPPへの参加は少ないものの、政府はこの分野への民間投資を促進し、増加させるための新しい取り組みを発表しています。例えば、コンテナ輸送は、以前は「Container Corporation of India Limited」(CONCOR)という国営独占企業の下で行われていました。積荷や船荷のコンテナ化が進む中、この部門は政府によって自由化され、民営化の道が開かれました。民間企業はCONCORと提携することも、競合することもできるようになり、さらに、政府は、高速鉄道、炭鉱や港を結ぶ鉄道路線、電化、高速路線、郊外鉄道路線に関するプロジェクトに海外直接投資(FDI)を認めています。インド鉄道は、今後5年間で1,307億6,000万米ドルの投資見込みを見込んでいます。鉄道関連部品産業における直近の累積海外直接投資(FDI)資本流入額は、2000年4月から2022年12月までの間に約12億3,000万米ドルを記録しています。

鉄道業界において、海外直接投資(FDI)が(全部または一部)認められている活動のいくつかを以下に示します:

- 郊外鉄道路線プロジェクトの建設・維持・運営
- 高速鉄道プロジェクト
- 貨物専用線路
- 列車セットや機関車などの鉄道車両、または客車の製造・整備施設
- 鉄道の電気化



- ・ 安全性向上と事故低減のための技術的解決策
- ・ 旅客ターミナル、貨物ターミナル、ロジスティクス・パーク
- ・ テスト施設・研究所
- ・ バイオ・トイレ
- ・ 非従来型エネルギー源

インドにおける新幹線プロジェクト

現在、インドでは高速鉄道が開通していませんが、インド政府はいくつかの路線を計画し、そのうちの1つは現在建設中です。2016年には、インドにおける高速鉄道路線の資金調達、建設、維持、管理を目的としたNational High-Speed Rail Corporation Limited (NHSRCL)が設立されました。



インドの意欲的な新幹線プロジェクトは、ムンバイ-アーメダバード高速鉄道 (MAHSR) プロジェクトとも呼ばれ、ムンバイとアーメダバードの都市間を結ぶ高速鉄道を建設するインドと日本の共同事業です。新幹線・高速鉄道業界のエコシステムは、ボンバルディア (カナダ)、アルストム (フランス)、シーメンス (ドイツ)、日立 (日本) などのメーカーと、日本車両工業会 (JARI) や国際鉄道新聞 (IR) などの研究機関で構成されています。現在、このプロジェクトはインドで進行中の最も注目すべきプロジェクトの一つであり、2都市間の移動時間を現在の7時間からわずか2時間に短縮することを目指しており、インドの交通セクターにとって画期的なプロジェクトとなっています。日本の国際協力機構 (JICA) は、プロジェクト費用の81%を0.1%の金利で出資し、全体費用は1.1億ルピーになる見込みです。

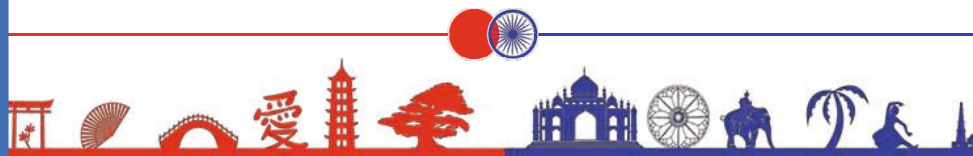
プロジェクトは2023年までの完成が見込まれていましたが、マハラシュトラ州での土地取得に関する問題やCOVID-19の大流行により、現在は2028年10月までに完成する予定としています。ただし、この路線のうち、スラート〜ペリモラ間の一部は2026年までに開通する予定です。鉄道省は、全体の26.33%以上が完成していると報告しています。

インドの新幹線プロジェクトは、資本財、金属、インフラ、セメントなど、他の多くのセクターに好影響を与えようと思われる。

政府の取り組み

インド政府は、インドの鉄道セクターの発展のために多くのイニシアチブをとりました。その中には、以下のような取り組みがあります：

- ・ 2022-23年度連邦予算において、鉄道省の年間予算配分総額を140,367インドルピーの計上。
- ・ マルチモーダル物流施設 (輸送プロセス全体の効率を高めるために、複数の輸送モードを必要とする物流・輸送プロセス) 「100PM-GatiShakti」 Cargo Terminalsを2025年までに整備する。
- ・ プロジェクト「Utkrisht」は、66の重要な特定郵便/特急列車の状態改善を目的としています。2018-19年まで、すでに140の列車中90の車両が一新されました。プロジェクトのフェーズ2では、500の列車が対象となる。
- ・ 都市交通と鉄道駅間のマルチモーダルな接続 (複数の交通機関の連携を通じて、効率的で良好な交通環境が提供される交通体系) を優先的に進める。
- ・ 2022年8月、政府は速度向上のためのミッション (「Raftaar」貨物列車の平均速度を2倍にし、超高速/郵便/特急列車の平均速度を時速25km向上させるという達成目標) をスタート。
- ・ 2020年7月、鉄道省は、109の駅 (OD) 路線で旅客列車サービスを運営する民間参入のための資格審査請求 (RFQ) を実施しました。このプロジェクトには、約40.9億米ドルの民間投資がありました。
- ・ 2030年までに、鉄道網全体を再生可能エネルギー走行へと切り替える。



- インド鉄道の研究部門であるResearch Designs & Standards Organisation (RDSO) は、インド国鉄の研究部門であるインド鉄道株式会社は、鉄道業界におけるベンダーの登録のためのデジタルで透明性のあるシステムと手続きをスタート。

全国鉄道計画ビジョン2030

2022年3月、インド鉄道は「インド-2030年の全国鉄道計画 (NRP)」を作成しました。この計画は、2030年までに「未来に備える」鉄道システムを構築することを目的としています。NRPの主な目的は以下の通りです：

- 貨物輸送における鉄道のモーダルシェア (特定のタイプの交通機関を使用する割合) を45%に引き上げるため、運用能力と商業政策への取り組みの両方に基づく戦略を策定。
- 貨物列車の平均時速を50kmにすることで、貨物の輸送時間を大幅に短縮する。
- 全国鉄道計画の一環として、2024年までに100%電化、混雑路線の複線化、列車の速度向上など、特定の重要プロジェクトの実施を加速する「ビジョン2024」をスタート。
- 新しい貨物専用路線の拡張
- 新しい高速鉄道路線の拡張
- 旅客輸送に必要な鉄道車両と、貨物輸送の必要量の把握
- 100%電化(グリーンエネルギー)と貨物モーダルシェア(特定のタイプの交通機関を使用する割合)の拡大という2つの目標を達成するための機関車の必要性の評価
- 定期的な投資配分とともに必要となる総資本投資額の評価
- 鉄道車両の運用・所有、貨物・旅客ターミナルの開発、軌道インフラの開発・運用などの分野で、民間企業の持続的関与
- 総延長3,750km、39,663カロールの58の超重要プロジェクトと、総延長6,913km、費用75,736カロールの68の重要プロジェクトが、2024年までに完了の目標

Key Issues for National Rail Plan: 2030

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◎ Indian Railways@2030: Future Perspective ◎ Promotion of Digital Systems & Smart Technologies for Indian Railways ◎ Make in India: Manufacturing for Indian Railways ◎ Capacity Enhancement and Congestion reduction ◎ Enhanced Customer Services ◎ Introducing New technologies in Railways ◎ Land & Railway Infrastructure Modernisation ◎ Enabling Ecosystem of Material Procurement ◎ Track Modernisation & Renewal of Tracks | <ul style="list-style-type: none"> ◎ Innovative and Advance Energy Technologies ◎ Decarbonisation & Energy Efficiency of Indian Railways ◎ PPP for Container Freight Terminals ◎ Signalling & Electrification ◎ Innovative Financing Solutions ◎ Investment Opportunities for New Projects ◎ Station Redevelopment ◎ High Speed Network ◎ Security & Safety Measures ◎ Tools and Trends in use of Data Analytics for Enhancing Safety ◎ Big Data & Cybersecurity Challenges |
|--|--|

備考

この記事は、一般的な性質の情報を含んでいます。この情報は一般的なガイダンスに過ぎず、いかなる形でも専門家のアドバイスの代用となるものではありません。読者の皆様が弊社からの具体的なアドバイスが必要とされる場合は、別途弊社までご連絡ください。

クレイマンに關しまして

KrayMan Consultants LLP (KrayMan) は、グルグラムに本社を置き、インド全土の日系クライアントにサービスを提供している会計・アドバイザリーファームです。インド進出、会計、保証、税務、規制、トランザクション・アドバイザリー、M&A、法務、人事・給与サービスなどに特化しています。私たちは、勸許会計士(CPA)、会社秘書、弁護士、MBAで構成されるプロフェッショナルチームです。詳細については、弊社ウェブサイト www.krayman.com/jp をご覧ください。サポートが必要な場合は、communications@krayman.com までご連絡ください。

